

中古住宅流通と密接に

FRKの取り組み 取引の流れ変わるか

中古（既存）住宅流通と関係になる。中古住宅の購入リフォームはともに「ストック活用」の観点で密接な

入時がリフォームをする絶好の機会であるためだ。リ

フォームが取引システムに組み込まれることでその可能性が大きく広がる。

国土交通省も売買を伴う流通時のリフォームを今後のストック活用制度（保険加入、住宅履歴情報の蓄積）を定着させる好機ととらえ、今年度から補助事業を開始する。民間側でもその取引機会に着目した「リニューアル仲介」（埼玉県川口市のエイムが主催）方式が始動した。これは売主側が買い手の意向に沿ったリフォームを施した上で売却する仕組み。

また、不動産流通経営協会（FRK）が「流通新時代」へ向け、今年度から取り組むのが『FRKバリューアップモデル』。具体的な展開についてはこれから詰めるが、不動産流通業界団体として耐震診断やインスペクション、改修・リフォームを推進することになりそうだ。

現状は「現況有姿」での売買がほとんどだが、FRKの取り組み方次第では中古住宅流通の取引の流れや仕組みが大きく変わる可能性も出てきた。